

豊福阿蘇神社で秋祭り 子どもみこし6基が登場

10月15日、豊福阿蘇神社（松橋町豊福）の秋祭りがあり、今年初めて登場した6基の“子どもみこし”が、祭りを大いに盛り上げました。

子どもみこし奉納自体は2年前から実施。「自分たちが育ったふるさとの楽しい思い出を持ち続けてほしい」と地元有志が企画したもので、当初は豊福小学校の児童の代表ら20人ほどで、神社近辺を練り歩いていました。

そして、今年は祭りの準備段階で“子どもみこし”の話が広がりを見せ、「豊福校区の全6地区それぞれみこしを作って盛大にやろう」ということに。休日を利用して児童らは製作に取り掛かり、独自の飾りや工夫を凝らしたみこしが完成しました。

祭り当日は小雨が降る中、午後1時に法被姿の児童とみこし6基が神社境内に集合。おはらいを受けた後、児童とみこしはそれぞれの地区に戻り、各地区の公民館を出発。「ワッショイ！ワッショイ！」と元気な掛け声とともに、それぞれの地区内を2時間ほどかけて練り歩き、商売繁盛や家内安全を祈願しました。



ずらりと並んだ個性的な6基のみこし。今回が初お披露目となりますが、今後も次の世代へと受け継がれていくことでしょう

もちろん「みこしは初めて」という子がほとんど。初めはぎこちなかった担ぎ方も、後になると板に付いてきたようです



働く楽しさ、大変さを実感 総合的な学習の時間で中学生が職場体験

9月28日から30日の3日間、不知火中学校の2年生が、職場体験学習を行いました。

生徒たちは、市内の受け入れ事業所27カ所の中から、自分が希望する事業所を選び、その職場へ出向きました。

早田薫さん、河村万里さん、寺本有花さん、中地結子さんの4人は、不知火図書館で窓口業務や書架整理などを体験。仕事を終えた早田さんは、「図書館にもたくさんの仕事があることが分かった。3日間きつかったけどとても楽しかったです」と感想を語りました。



ちょっとドキドキワクワクの職場体験
(不知火図書館)

みんなの公園がきれいになったよ！ 身障者協会小川支部が清掃奉仕活動

10月12日、市身体障害者協会小川支部（松本経雄支部長）の皆さんが、観音山総合運動公園グラウンド一帯の草刈りとゴミ拾いの清掃作業をしました。

今回は42人が参加し、作業の後はグラウンドゴルフで親睦を深めました。

本協会は毎年2回春と秋に、市小川支所や総合健康福祉センター周辺の草刈りなどのボランティア活動をしており、作業の後はグラウンドゴルフやペタンクなどで体力づくりをしているということです。皆さんお疲れさまでした。



協会の皆さん、いつもありがとうございます！

地域の活性化と雇用促進に期待 初の誘致企業と進出協定

小川町新田出に工場建設および本社移転をする水産物加工・販売業の日本業務食品株式会社（現本社宇土市・高木和憲社長）が、宇城市発足後の誘致企業第1号として10月7日、宇城市と進出協定を結びました。

市役所での協定書調印の後、阿曾田清市長が「地域から愛される企業として発展されることをお祈りします」とあいさつ。それを受けて、高木社長が「会社発展のため地域と一体となって頑張っていきたい」とあいさつしました。

同社は現在、宇土市長浜町に本社、工場があり、従業員は45人。10月中旬に移転を終え、11月から操業、10人程度の新たな雇用も計画されています。

なお、10月22日には、現地で落成祝賀会が開かれ、関係者ら約250人が出席。同社の新たな門出を祝いました。



協定書を取り交わし、固く握手をする
高木社長（右）と阿曾田市長



10月22日に落成祝賀会が行われた小川町新田出の新本社

受賞おめでとうございます 元不知火町長・森氏が総務大臣表彰

市町村長などとして多年にわたり在職し、地方自治の発展に功労のあったと認められる人に贈られる総務大臣表彰を、10月5日、元不知火町長の森茂之氏（不知火町長崎）が受賞しました。

森氏は昭和58年6月から不知火町の助役を務め、60年1月に不知火町長に就任。以来、宇城西部5町が合併するまでの5期20年間の長きにわたり在職しました。

主な功績としては、「総合行政センター構想の具体化」「町民の健康づくり」「災害に強い町づくり」などが挙げられ、町政の発展に大いに寄与したことが認められました。



20年間も町長という大役を務めた森茂之さん。本当に長い間お疲れさまでした

天まで届け！ 太鼓の響き 児童らが地元伝統芸能を披露

9月25日、三角町の青海小学校運動会で、上本庄地区の小・中学生や保護者らが地元伝わる雨乞い太鼓の演奏を披露。道を移動しながら叩いたという「道がけ」と、神にお祈りするときの「早がけ」という2曲を発表しました。

明治14年に1本の大きなけやきの木をくりぬいて作られたこの大太鼓は、口の大きさ1.31m、長さ2.2m、胴周り5.21m。当時、雨の降らない日が続くとこの太鼓を打ち鳴らし、天の神に祈り雨を待ったそうです。

雨乞い太鼓保存会の指導を受けて練習を重ねた演技に、見物客から盛んに拍手が送られました。



練習の成果を見事に発揮した児童たち。今後も地元の伝統芸能を受け継いでいってね